

2021年も、



ともに頑張りましょう！

あけましておめでとうございます。執行委員長の鬼塚です。今年もよろしくお祈りします。例年、1月初旬に「湘南教組旗開き」を開催し、組合員や各級議員、行政、各団体のみなさんと一緒に新年をスタートしてきました。今年度については、感染防止の観点から飲食をしない「湘南教組2021新春決起集会」を予定していましたが、年が明けても感染拡大が止まらない状況をふまえ、中止としました。すでに、分会長にはお伝えしていますが、急な変更になり申し訳ございませんでした。

さて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の勢いは止まらず、神奈川県を含む1都3県は「緊急事態行動」として強化した対策を行う方向で調整しています。また、菅首相は1月4日の会見で、今週末までに「緊急事態宣言」を再び発令する方針を表明しました。今回の「緊急事態宣言」によって、神奈川県が各自治体に休校を要請する可能性は低いとされていますが、学校現場にどのような影響が出てくるのかを注視しつつ、引き続き、神教組と連携しながら市町教委との協議をすすめていきます。

湘南教組はこれまで日教組、神教組に結集し、少人数学級の実現に向け文科省要請や各級議員要請等にとりくんできました。12月17日、政府は小学校の学級編制基準を一律35人に引き下げることを決めました。来年度は2年生を35人学級とし、その後、学年ごとに順次引き下げ、2025年に6年生が35人学級となる予定で、1月の通常国会に学級編制基準を定めた義務標準法改正案が提出されることとなります。40年ぶりの一律引き下げは評価できますが、現在加配措置されている人数を基礎定数として振り替えることで対応されるなど、小学校での専科指導や複数指導など、この間行われてきた指導の工夫改善が十分実施できなくなることが危惧されます。引き続き、十分な加配措置を求めるとともに、中学校における35人学級の実現に向けて、とりくみを強化していく必要があります。

10月下旬より開始した「私たちの賃金・労働条件を決定する『2020賃金確定交渉』」が山場を迎えようとしています。今年度は異例の形となり、一時金については12月期から0.05月分のマイナスで整理し、月例給等については12月～1月に交渉することとなりました。現在、県労連幹事団は、1月20日予定の最終交渉に向けて、断続的に県当局と交渉を続けています。県当局は、給与カーブの見直し等、高齢層職員にとって大きなマイナスとなる提案をしてきました。マイナス提案を押し戻し、賃金・労働条件改善を実現させるために、各分会では本日配付の資料のとりくみをお願いします。交渉状況の詳細については、神教組速報を

ご覧ください。

教育予算の確保・教育環境整備の充実・多忙解消の実現のためには、各級議員との連携が必要不可欠です。ご承知の通り、4月の鎌倉市議選については、湘南教組が組織内議員の「竹田ゆかり」さんに出馬を要請し、3期目挑戦を決断されました。コロナの影響によって、自治体の財政状況が苦しい中、私たちの要求実現のために、これまで以上に「竹田ゆかり」さんの存在が必要となってきます。2月の寒川町議選の「さとう一夫」さんと合わせて、組織一丸となってとりくんでいかなければなりません。

引き続き、コロナ対応や賃金・労働条件改善、組織化など、課題が山積している状況だからこそ、「安心して働ける学校」にするために、さらなる組合への結集をお願いいたします。

2021年も、ともに頑張りましょう。